

運動器マネジメントが患者の生活を変える！ がんの骨転移ナビ

有賀悦子，田中 栄，緒方直史 ● 監修
岩瀬 哲，河野博隆，篠田裕介 ● 編

〔評者〕土屋弘行（金沢大教授・整形外科）

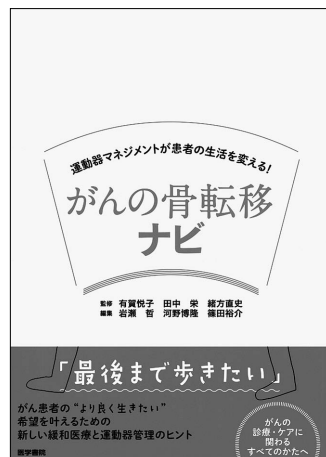
ひとは亡くなるとき，何を思うのだろうか？ 走馬灯のように頭を駆け抜ける自分の人生を振り返りながら，幸せな人生だったかどうかといったことを思うのだろうか？ 人生，若いときの幸せよりも，亡くなる間際に幸せを感じられるかどうかで，自分の人生に対する満足度は，大きく異なるのかもしれない。

がん患者の人生最期の数カ月が，絶望と苦痛に満ちてしまえば，せっかく過ぎてきた人生の日々も，虚しいものになってしまう。そして，ひとがよりよく生き，最期のときを迎えるためには，自分の手で食事を取り，自分の好きなときに，自分の好きな所へ，自分の力で歩いて行けることは，ひとがひととしての尊厳を保ちながら死に向き合うための，重要なエレメントである。今や，がん患者においては，除痛あるいはスピリチュアルケアとしての緩和的アプローチのみならず，その運動機能を維持し，ADLあるいはQOLをその最期のときまで保ち続け，がん患者の「よりよく生きる」という希望をかなえることが重要となっている。

今日わが国では，2人に1人ががんを患っている。そのような

中，がんに対する集学的治療法の向上により，多くのがんで生存期間が延長しているが，一方で，骨転移を有するがん患者数は増加の一途をたどっている。がんの骨転移は，がん患者の運動機能を著しく低下させる原因にもかかわらず，これまで末期と単純に捉えられ，その対処法は，主治医の経験に基づき決定されることがほとんどで，実に千差万別であった。近年ではこれらの現状を改善するため，多くの施設でがん骨転移キャンサーボードが立ち上げられ，より質の高い運動器マネジメントを行うために，多職種によるチームアプローチが行われている。本書執筆陣は，その黎明期から第一線に立ち続け，精力的にがん骨転移に取り組んできたエキスパートたちばかりである。

本書では，がん骨転移に対する投薬や手術法のみならず，看護，リハビリテーション，装具，栄養管理，在宅支援など，さまざまな方面からのマネジメント法がわかりやすく解説されており，最新の知識をより実践的に習得することができる。本書を手にしていただくことで，がん骨転移キャンサーボードのメンバーが，どのような知識を持ち，何を考え，どのよう



にがん骨転移患者と向き合っているか，その息遣いまでも感じただけことができるだろう。それはまるで，皆さんのがん骨転移マネジメントに，頼もしい骨転移キャンサーボードのメンバーたちが加わったがごときである。

ぜひ，医師のみならず，がん骨転移マネジメントに携わるすべてのメディカルスタッフに読んでいただきたい秀書である。

B5・312頁

2016年7月

定価：本体3,800円＋税

[ISBN978-4-260-02546-1]

医学書院 刊